



安全で安心して暮らすことができる 地域をつくるために防犯対策を支援

佐賀県遊技業協同組合 「ニセ電話詐欺を始めとする 犯罪被害防止対策への 継続支援」事業



佐賀県遊技業協同組合
理事長
新富和紀さん

選考理由

政府広報やマスコミによる注意喚起にもかかわらず、高齢者へのニセ電話詐欺被害は多発しています。その防止対策として「電話でお金の話はニセ電話」という電話機用ポップを制作。さらにATM用詐欺注意喚起の音声「せっと君」を県防犯協会に寄贈。被害発生抑制に貢献してきたこと。その他、安心安全な街づくりのために自転車盗難防止対策「防犯カメラ設置中」看板や少年の居場所づくり活動、児童養護施設プレゼント等、多方面にわたるきめ細かな活動が地域から共感を勝ち得ている。

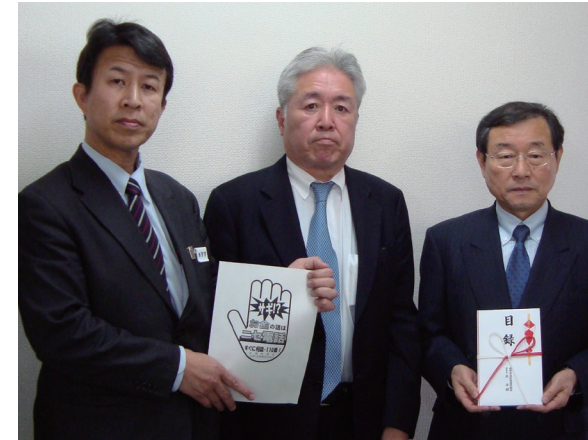
社会貢献活動審査委員会
委員長代行
脇田直枝氏



被害が相次ぐニセ電話詐欺事件に 佐賀県民が巻き込まれないために

佐賀県では県民の防犯意識の高揚を図るとともに、県民が安全で安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、県、警察、事業者、防犯ボランティア団体などが連携して犯罪防止のための自主活動や環境整備に取り組むため、「佐賀県犯罪の起きにくい安全で安心なまちづくり条例（愛称：佐賀県防犯あんしん条例）」を制定している。その取り組みの一環として、県、警察本部、教育関係機関、事業者など約50団体で構成される「防犯あんしん会議」が設置されているが、その構成団体の一つとして、佐賀県遊技業協同組合でも犯罪被害防止対策への支援活動に継続的に取り組んでいる。

佐遊協では県防犯協会に対し、毎年、活動資金を寄付するとともに、相次ぐニセ電話詐欺被害を防止するため、2016年3月に電話機用ポップ（受話器を取ると起き上がる仕組みで、「電話でお金の話はニセ電話」などと記載されている）7,000枚を寄贈、同協会を通じて県内の高齢世帯に配布された。翌2017年11月には音声機器せっと君（ATMに利用者が近づくとセンサーが感知し、「詐欺かもしれない」などと注意喚起の音声が出る仕組み）100個を寄贈、金融機関の店舗外ATMに設置された。還付金等詐欺では被害者がスーパーなどに設置された、いわゆる店舗外ATMに誘導されて被害に遭うケースが多いため、それを防止するための施策だったが、せっと君が設置され



ニセ電話詐欺被害を防止するために電話機用ポップ7,000枚を寄贈



金融機関の店舗外ATMに設置するために音声機器せっと君100個を寄贈



JR駅駐輪場（施錠重点対象駐輪場）に設置された「防犯カメラ作動中」の看板

た店舗外ATMでは、これまでに被害の発生はないという。一時、2億円を超えていた被害も2018年には認知件数20件（前年比-44件）、被害額3502万円（前年比-1億988万円）と減少した。数ある対策の一つではあるが、佐遊協の取り組みも貢献したと言える。

自転車盗の抑止効果を高める施策や 多方面にわたる社会貢献活動を実施

さらに佐賀県では窃盗事件に占める自転車盗の割合が高いことから、その防止策として佐遊協では2017年3月に県防犯協会に防犯カメラ設置を周知する看板50枚、翌年も30枚を寄贈した。防犯カメラが設置されていてもその存在が周知されていないために設置効果が表われていない場所があることに対応したもので、県防犯あんしん条例に基づき、警察署長が指定する「施錠重点対象駐輪場」などに設置された。看板設置の効果は極めて大きく、事業開始以降、自転車盗難認知件数は大幅に減少しているという。

上記の取り組みに加え、佐遊協では組合傘下のホールの協力のもと、新聞折込チラシや大型ビジョンなどを活用し、犯罪被害防止のための効果的でタイムリーな広報・啓発活動を実施している。こうした支援は今後も継続する方針で、2019年2月には県防犯協会に対し、防犯カメラ3台の設置支援金が贈呈された。

この他にも佐遊協では2018年中の社会貢献活動の一環として、県暴力追放運動推進センター、被害者支援ネットワーク「佐賀 VOISS」への活動資金の寄付、少年の居場所づくり活動を支援するために県少年補導員連絡協議会にソフトボール用品一式などとともに活動資金を寄付、県内全6施設の児童養護施設へのクリスマスプレゼント（図書カード、お菓子詰め合わせ）を寄贈するなどした。

佐遊協の新富和紀理事長は、「我々ホールは、地域の皆様に支えていただけるからこそ営業を続けられる。その感謝の気持ちと、欧米で根付いている『ノブレス・オブリージュ』の考えに基づき、社会貢献活動に取り組んでいる」と話す。今後の活動の継続と一層の充実に期待したい。